

教育プログラム・コースの概要

大学名等	国際医療福祉大学大学院医学研究科、薬学・薬科学研究科、医療福祉学研究科						
教育プログラム・コース名	がん個別化医療・創薬の推進を目指したゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う人材養成コース（正規課程：薬科学研究科、医療福祉学研究科修士課程）						
対象職種・分野	医師（腫瘍内科・血液内科、遺伝医学、病理医、免疫学、外科、放射線科など）、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、遺伝カウンセラーなど						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	特にがんゲノム解析技術やがん免疫療法を大きな柱として、最新の個別化医療・創薬開発の推進に関しての知識と意欲を持ち、がんの個別化診療とくにゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う実力を有した医療専門職人材を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目7単位以上を含む10単位以上を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目></p> <p>がん遺伝子解析学（1単位）、臨床腫瘍学各論（1単位）、がん免疫治療学（1単位）、がん治療薬学（2単位）、がん治療の先端知識の基礎（2単位）</p> <p><選択科目></p> <p>ゲノム情報解析実習（1単位）、造血器腫瘍に関わる医療者育成コース（2単位）（ともに連携校共通インテンシブプログラム）、医療プロフェッショナルリズム・医療安全（1単位）、がんのカウンセリング概論（2単位）、がん看護学（2単位）、がん治療放射線医科学（2単位）、がん診療の基礎知識（2単位）、がん臨床検査学（1単位）、臨床腫瘍学診療実習（2単位）など</p>						
がんに関する専門資格との連携	腫瘍内科専門医（日本臨床腫瘍学会）、臨床遺伝専門医（日本人類遺伝学会）、がん専門看護師（日本看護協会）、がん専門薬剤師（日本医療薬学会）など						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんの個別化医療はがんゲノム情報の解析の臨床現場での拡大とともに新薬の臨床研究が盛んに行われ、成果が得られつつある。また、生体に備わる免疫機能を賦活化し、がん免疫を亢進させてがん制圧に役立てる療法は一部のがんに劇的な効果を示すことも知られてきた。遺伝子情報や免疫機能をどのように解析して難治性のがんに立ち向かうか、について創薬研究、検査薬の開発への期待は大きい。また、小児がん、血液がん、希少がんなどの難治性がんへの個別化医療へのニーズは高い。このような観点から医師、薬剤師、検査技師などが新薬や新しい検査薬の開発に取り組むに当たっての基礎および実際を学ぶことを教育内容の主眼としているが、その際に看護師、生殖医療に関わる胚培養師、遺伝カウンセラー、さらにビッグデータをもとに研究開発をサポートできるバイオインフォマティシャンなど多職種が情報を交換し、共に学び成長できるコースとして設定する特色を有する。						
指導体制	本コースを受講する各院生の出身母体の分野専攻の責任者や指導教員が責任を持って指導を行う。共通項目の学修に関しては、本がんプロを運営する推進委員会委員が連携校の委員と共にWGを編成して対応する。特にゲノム解析とその応用に関しては本学ゲノム医学センター及び遺伝カウンセリング分野、免疫療法に関しては医学部免疫学教室、ビッグデータ解析に関しては本学公衆衛生学専攻のデータサイエンティストなどの全面的な支援を得る体制を構築している。						
修了者の進路・キャリアパス	医師、薬剤師、臨床検査技師の育成が主眼となるが、その際に看護師、生殖医療胚培養師、遺伝カウンセラー、ビッグデータをもとに研究開発をサポートできるバイオインフォマティシャンなどの多様な職種の医療スタッフがそれぞれの立場から、がん患者に最善の個別化医療に関する最善の支援を提供できる専門家として成長し、がん診療病院の臨床現場で指導的に機能を果たすことを期待する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の大学院のがんプロ志願者数及び入学ニーズ調査から、毎年確実に2人以上の志願者が見込まれることから、受け入れ目標人数を2人と設定した。						
履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2					2